

経営発達支援計画

H30年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

商工会への支援ニーズ・個社の課題発掘調査レポート

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(平成30年10月～12月)

京丹後市商工会

商工会への支援ニーズ・個社の課題発掘調査レポート

— 事業承継調査編 —

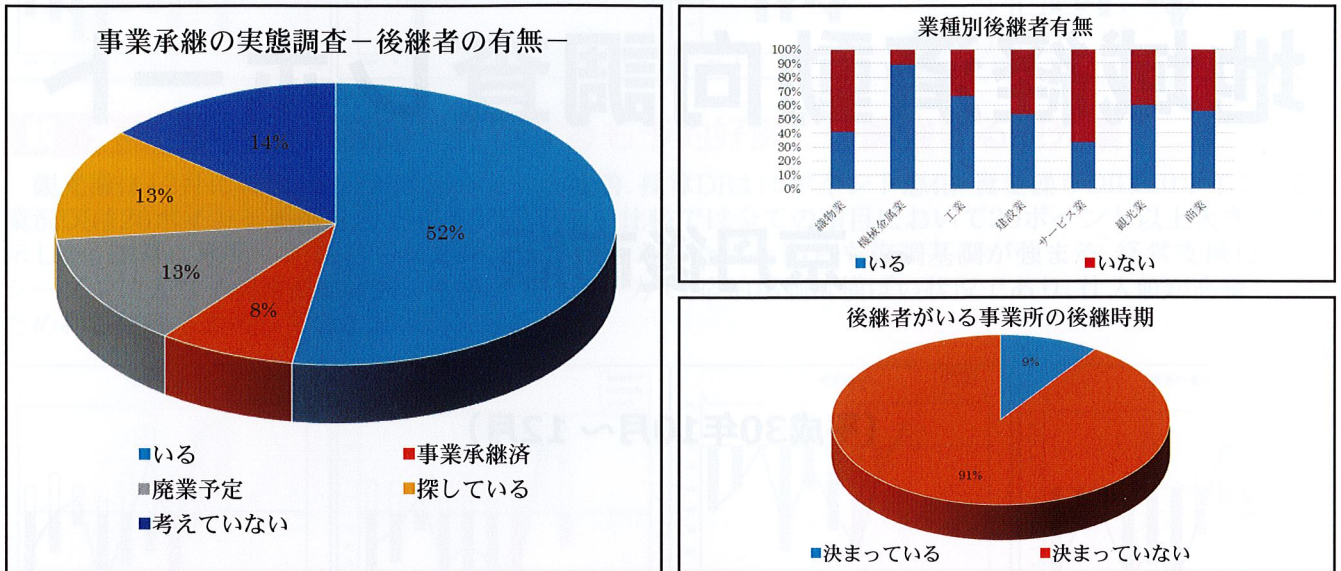
2019年1月31日

<調査概要>

【調査目的】個社の事業課題を把握すると共に、地域経済動向調査を併せて実施することで、事業者との関わり頻度を増やし、支援ニーズに沿った施策活用提案など支援の依頼機会の創出を目的として実施するものです。

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2018年10月～12月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式



地域経済動向調査レポート－京丹後市版－

～依然、人手不足であるも緩やかな復調傾向である市内の小規模企業～

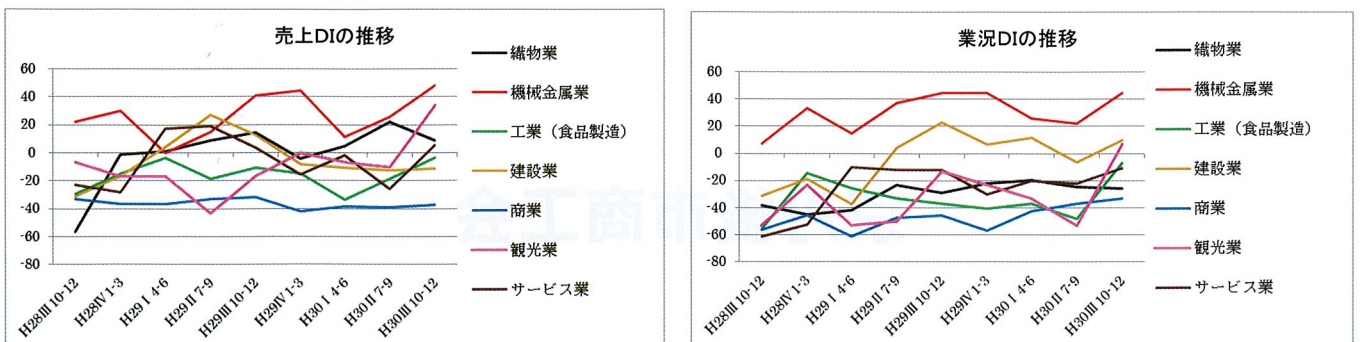
<調査概要>

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2018年10月～12月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

<産業全体> …依然、人手不足であるも緩やかな復調傾向である市内の小規模企業…

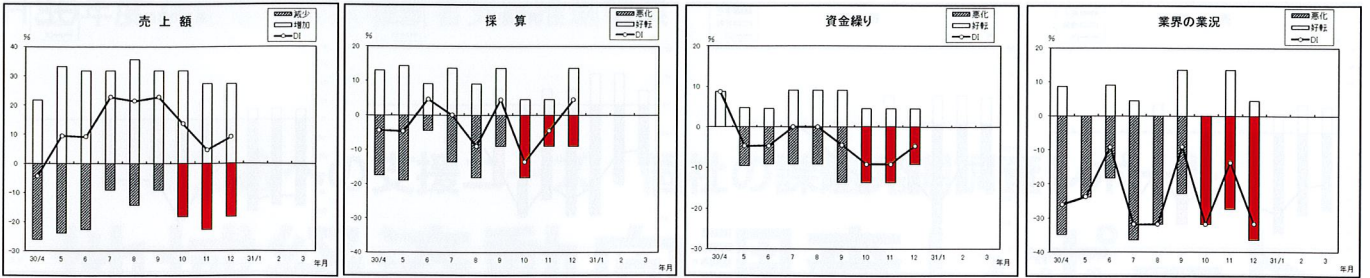
10月～12月の小規模事業者経済動向調査は、前四半期(H30.7～9月)と比較して、売上DIは11ポイント改善し、2期連続の改善となった。他の項目についても10ポイント以上大きく改善するなど、全ての項目で改善が見られた。依然、全業種に共通して人手不足の状態ではあるが、機械金属業が他の業種を牽引するかたちで、全体的に緩やかに復調傾向であると考えられる。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

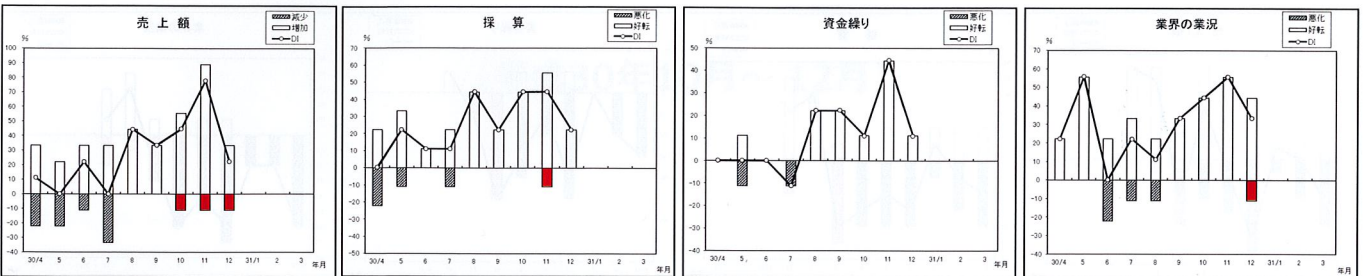
織物業 一部製品の受注は安定するも織手不足が重しとなりジリ貧の織物業

織物業は12月に入り、売上DIと資金繰りDIは低調ながら僅かに改善、採算DIは9ポイントと大きく改善した。業況DIは18ポイント悪化した。前四半期との比較では、全ての項目において、2~13ポイント悪化した。経営支援員からは、依然織手不足状態で、比較的受注は安定してきているものの、利益確保が難しい。また、精練工程の遅れが深刻化して資金繰りの悪化が懸念されるとの報告があった。



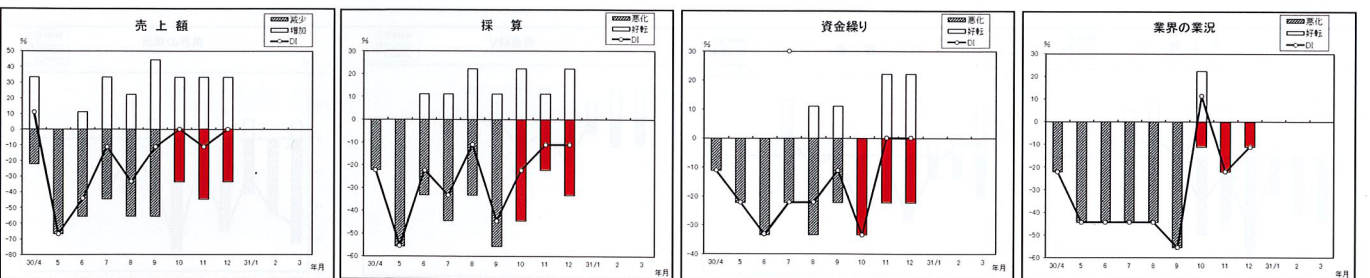
機械金属業 依然好調をキープするも高止まり感が残る機械金属業

機械金属業は12月に入り、全ての項目において悪化したが、11月の売上DIは本年度の最高値となった。前四半期との比較では、全ての項目において10~20ポイントと大きく改善が見られ、新しい設備などを導入した企業が売上を伸ばし生産増強などで好調をキープしている。経営支援員からは、今のところ好調であるが、人手不足が足かせとなり、今後が予測しにくい状況との報告があった。



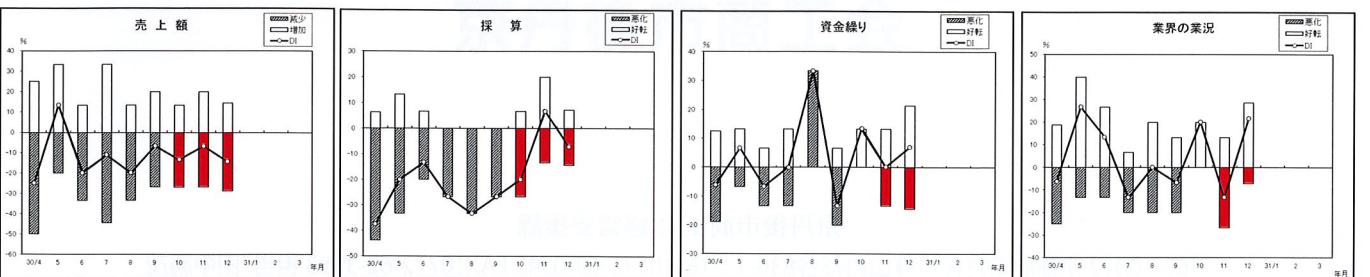
工業(食品製造) 収益確保に苦慮するも復調基調が伺える工業(食品製造)

工業(食品製造)は12月に入り、売上DIと業況DIは小幅に改善。採算DIと資金繰りDIは横ばいであった。前四半期との比較では、業況DIが40ポイントと大きく改善し、売上DIと採算DIがそれぞれ15ポイント、資金繰りDIが7ポイントと全ての項目で改善を示した。経営支援員からは、年末の需要で売上が伸びる一方で、経費上昇のため収益確保に苦慮しているとの報告があった。



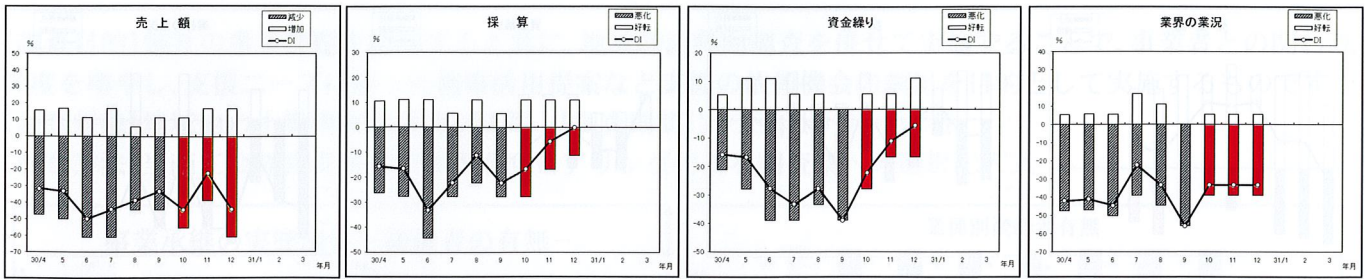
建設業 災害復旧工事増に繁忙を極めるも人手不足が深刻化する建設業

建設業は12月に入り、業況DIは33ポイントと大きく改善した。資金繰りDIも7ポイント改善した。採算DIと売上DIは小幅に悪化した。全四半期との比較では、全ての項目において小幅に改善し、業界的に緩やかではあるが復調の兆しが見える。経営支援員からは、土木関連の受注は好調な一方、建築関連は不調である。全体的に人手不足が深刻化しているとの報告があった。



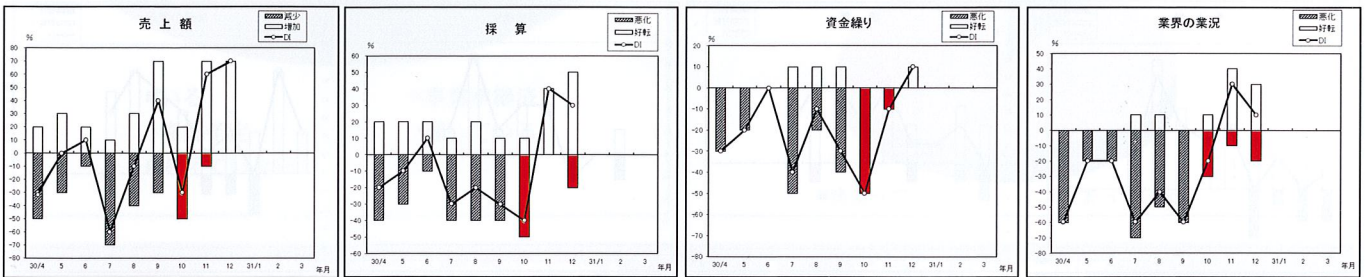
商業 季節的需要が不調な一方で低水準ながら緩やかな復調傾向の商業

商業は12月に入り、売上DIは20ポイントと大きく悪化した。採算DIと資金繰りDIは、共に6ポイント改善を示し、業況DIは横ばいであった。前四半期との比較では、資金繰りDIが20ポイントと大きく改善し、その他の項目においては小幅に改善した。経営支援員からは、一部の商材が好調であった一方で、天候に恵まれながらも客足が鈍っているとの報告があった。



観光業 原材料高騰で苦戦するも予約好調で復調強まる観光業

観光業は12月に入り、売上DIは10ポイント改善、採算DIは10ポイント悪化、資金繰りDIは20ポイント改善、業況DIは20ポイント悪化を示した。前四半期との比較では全ての項目において20ポイント以上大きく改善を示した。12月に悪化した項目も高水準での悪化となったことから復調基調が強まる。経営支援員からは、シーズンに入り予約状況が好調に推移している一方で、宿泊単価は横ばい状況であり、仕入値が高騰しているため利益確保に苦戦しているとの報告があった。



サービス業(飲食店) 売上・採算DI改善も人手不足や原材料高騰の影響大きいサービス業

サービス業は12月に入り、採算DIは17ポイントと大きく改善した。売上DIは6ポイント悪化、資金繰りDIは横ばい、業況DIは11ポイント悪化した。前四半期との比較においては、売上DIと採算DIは共に20ポイントと大きく改善。資金繰りDIと業況DIは共に10ポイント改善といった全ての項目において改善した。

経営支援員からは、天候にも恵まれ、宴会やイベント・年末需要を取り込み売上が好調であった一方で、原材料高騰と人手不足が足かせになっているとの報告があった。

